

学界消息

史学研究會關係

例会 九月廿八日(土) 午後一時より

臨地講演 宇治平等院見学

講師 上野照夫氏

解体修理を終えて面目を一新した宇治平等院について、講演と見学の会を行つた。

(往復観光バス利用)

国史關係

読史会九月例会 九月一四日(土)

午後一時 於京大薬友会館北室

人吉庄における地頭と在家について

大山 喬平

自由民権運動史上における大阪事件

中塚 明

神道史学会大会 九月二十九日(日)

午後九時 於京大薬友会館

エビス神信仰の本源

吉井 良隆

禊祓の神としての住吉大神

真弓 常忠

魏志倭人伝の信憑性

時野谷 滋

——風俗記事を中心として——

旧事記の成立

神郡について

橘氏と梅宮神について

式内社間の間隔について

神道史上の一課題

——教学上の一齣——

二十一社記の成立の一考察

古事記の伝来と神道家

浅見綱斎の神道思想

神祇官吉田家について

God save the Queen の意義

——英国教会祈禱書を中心にして——

(講演)

ダンテの神曲を讀みて古事記の一段を顧みる

大阪歴史学会秋季大会 一〇月六日(日)

午前九時半 於関西大学大学院階段教室

尼崎下坂部遺跡調査の概要

薬種作・綿作地帯の再検討

天平十二年の内蔵寮解

「村方改革」と国訴

アダム・スミスの東インド貿易論

鎌田 純一

飯田 瑞穂

今井 啓一

志賀 剛

安津 素彦

後藤 正二

青木 紀元

近藤 啓吾

羽倉 敬尚

蒲生 俊仁

山田 孝雄

村川 行弘

北崎 豊二

井上 薫

小林 茂

西村 孝夫

近世後期河内小作料の態様

廢都後の平城旧京城内の様態

近世封建貢租に関する一考察

——特に貨幣納について——

中世の村落共同体に関する試論

——「座」の構成について——

城下町高田における商人資本

古代手工業生産の史的意義

寺内町富田林の構造と展開過程

梅染考

東洋史關係

東洋史旧制大学院研究発表会

六月例会 六月八日(土) 午後二時

唐代の地稅について

書評 柯昌基「宋代雇傭關係の初步探索」

七月例会 七月十三日(土) 午後二時

元代の海外貿易について

明代万曆朝の宗教的叛乱について

三階教の經濟思想

九月例会 九月八日(土) 午後二時

竹安 繁治

大井重二郎

塩野 芳夫

黒田 俊雄

高沢 裕一

門脇 禎二

臨田 修

後藤 捷一

井崎 隆興

間野 潜龍

兼子 秀利

笹本 重巳

善峰 憲雄

密雄

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

重巳

雍正帝の仏学

高麗朝における佃戸

唐代における奴婢について

塚本 俊孝

金 洪圭

中谷 英雄

地理学関係

国際地理学会議

国際地理学会議リージョナル・カンファレンス・オヴ・ジャパンは、八月二九日—三一日東京学士会館、九月二・三日天理大学の二会場を中心に、その後それぞれ数日にわたる現地討議（エクスカーション）を加えては二〇日にわたり挙行された。外国よりは二〇カ国八〇餘名にのぼる参加があり、日本からは二〇〇餘名の参加をみた。東京では東南アジアに関するシンポジウムが行われ、そのほか研究発表は、地形・気候・陸水・土地利用・工業化・産業地域・総合開発・集落・人口等の多方面にわたり、活潑な論議の展開のうち、学問の国際交流に多大の成果をあげた。現地討議の地域としては北海道・東北・東京都・中部・大和盆地・宇治—京都・阪神・瀬戸内・九州の諸地域が取上げられた。研究発表と現地討議を通じ、外国地理学者の日本に対する認識はより深められたものと考

えられる。またわが国の地理学界もこの会議を機会に何等かの刺激をうけたことであらう。なお、東京では現代地図、天理では日本製古地図に関する展覧が催され、内外学者に与えた感銘は著しいものがあつた。

考古学関係

山口県豊浦郡豊北町、土井ヶ浜遺跡の調査
八月一日—十七日。

奈良文化財研究所金関恕氏は九州大学医学部解培学教室と第五次の共同調査を行つた。弥生式前期の人骨二二体を発掘、人骨の埋葬と上層の土師器との関係が確かめられた。土師器の層からは鏡二面が出土した。

下関市安岡・梶栗浜遺跡の調査
八月十七日—二十五日

本年一月に続く第二次調査
金関恕氏等が弥生式前期の箱式棺二、石甕一を発掘し、石棺内からは碧玉管玉多数が発見された。

執筆者紹介

宮崎市定 京都大学教授

山崎 宏 東京教育大学教授

川喜田二郎 大阪市立大学助教授

永井三明 京都大学助手

大月 明 大阪市立大学講師

時野谷勝 大阪大学教授

松尾尊兌 京都大学助手

狩野直禎 京都大学大学院学生

山澄 元 京都大学大学院学生